

前期授業終了にあたって
東京女子大学 学生のみなさんへ

東京女子大学 学長
茂里 一紘

昨日、前期授業が終了しました。この1学期はみなさんにとっては、長かつ厳しい学期だったことと思います。初めての遠隔教育には、みなさんそれぞれ対応に苦労されたことも承知しております。しかし、こうして学期最終日を迎えることができたこと、心より感謝します。

昨年度末、新型コロナウイルス感染がいよいよ深刻になり、急遽、学年暦を変更し、前期のすべての授業を遠隔授業で実施することにしました。これは、みなさんを始め、教職員および関係者の安全を確保する（「感染しない、感染源とならない」）こと、そしてどのような状況になっても質の高い教育を維持することを第一としての決断でした。

遠隔授業の実施にあたっては、教職員は新しい教育方法に真摯に挑戦し、大変な準備と時間を費やしました。しかし、それにも増して、初めてのことに戸惑いと困難を覚えながらも対応してくれた学生のみなさんの理解と協力があって実現できたことです。友だちも先生にも対面できない環境で、すべてを一人で対応することは心細くもあったことでしょう。「自立」を掲げる“東女力”を改めて誇りに思っております。

緊急事態宣言・措置に基づき、キャンパスの入構制限も同時に実施しました。そのため、授業以外の活動にも大きな制限が加わりました。1年生は、東京女子大学の学生としてキャンパスに足を踏み入れることのないまま今日を迎えました。静かなキャンパスにひっそりと咲いている花を見ると、自宅で遠隔授業を受講しているみなさんのことが思い出されました。折にふれ「学長室から」や「今週の礼拝」などで、大学の状況やみなさんへのメッセージをお伝えしました。せめて1年生だけでも大学に集う機会を持つことなど、学生のみなさんにお会いできるようにと、さまざまな検討も行いました。しかし、感染状況はさらに悪化し、見送ることとなりました。

後期については、新型コロナウイルス感染が収まらない状況であることから、「遠隔授業を主とし、一部対面授業」という方針で臨むこととしました。引き続き「感染しない、感染源とならない」方針を堅持する中で、実験・実習科目を中心に一部対面授業を行います。対面授業の受講が困難な方には遠隔授業でも受講できるように配慮します。

先般、「TWCU SSプロジェクト」がスタートしました。これは、学生のみなさんのアルバイトの機会が少なくなる中、大学業務を補助する「学内アルバイト」の機会

を提供し、「誰かのためにできること」（SS精神）を実践し、困難を自らの力で乗り越えようとする学生を支援するプロジェクトです。遠隔でも可能です。ご関心のある方は、本学公式サイトのご案内をご覧ください。

危機的状況の中で、本学の質の高い教育を維持することができたことをともに喜びたいと思います。大学としては、今回の経験を大学の情報化に向け将来につなげたいと願っています。と同時に、否応なくICTの時代を生きることになるみなさんにも、今回の経験をいい機会としてほしいと願っています。

どうぞ、『3密』を避け、有意義な夏休みをお過ごしください。

2020年8月6日